

もっと学びたい人へ (4)



第 4 課で、動詞シルシ形ナラバ・スレバ式を見ました。シルシは肯定形が '-ki-'、否定形が '-sipo-' でしたね。これは、「～ならば…する／…しない」、「～すれば…する／…しない」という、いわば‘ナラバ・スレバ(…スル)式’の言い方でした。

▽ [動詞シルシ形] ナラバ・スレバ(…スル)式

【肯定形】

主語の シルシ	- ki	(- 目的語の シルシ)	+ [動詞本体]
------------	-------------	-----------------	----------

【否定形】

主語の シルシ	- sipo	(- 目的語の シルシ)	+ [動詞本体]
------------	---------------	-----------------	----------

ここでは、「～ならば…した／…しなかった」、「～すれば…した／…しなかった」という、いわば‘ナラバ・スレバ(…シタ)式’について、見ていきましょう。



◆ [動詞シルシ形] ナラバ・スレバ(…シタ)式

まず、動詞シルシ形 ナラバ・スレバ(…シタ)式 のシルシは、以下のようになっています。

▽ [動詞シルシ形]ナラバ・スレバ(…シタ)式の肯定形のシルシ

-nge-	〈～であったならば／～したら〉	〈…した〉
-ngeli-	〈～であったならば／～したら〉	〈…した〉
-ngali-	〈～であったならば／～したら〉	〈…した〉

文法書によっては、これら 3 つのシルシの意味を区別しているものもありますが、事実上、いずれのシルシも同じように使われています。次の否定形でも同様です。

▽ [動詞シルシ形]ナラバ・スレバ(…シタ)式の否定形のシルシ

-singe-	〈～でなかったならば／～しなかったら〉	〈…しなかった〉
-singeli-	〈～でなかったならば／～しなかったら〉	〈…しなかった〉
-singali-	〈～でなかったならば／～しなかったら〉	〈…しなかった〉

ナラバ・スレバ(…スル)式では、後に続く結論の部分は、未来の時間のスル・シタ式や、後の課で見るシ・シテ・シオウ式でした(→第 6 課)。ナラバ・スレバ(…シタ)式の場合は、後の結論の部分でも、上で見たナラバ・スレバ(…シタ)式のシルシを用います。

例を見ておきましょう。

((例 1)) **Ange**kuwa na shughuli nyingine, **ange**kataa.

〈彼は他に用事があったならば、断った。〉

(‘+ kataa’ 〈断る〉)

((例 2)) **Angeli**amka mapema, **asingeli**chelewa.

〈彼は早く起きていたならば、遅刻していなかった。〉

(‘+ amka’ 〈起きる〉, ‘mapema’ 〈早く〉, ‘+ chelewa’ 〈遅れる〉)

((例 3)) **Asingem**kuta Saida, **ange**hangaika sana.

〈彼はサイダに会わなかったならば、とても慌てた。〉

(‘+ hangaika’ 〈慌てふためく〉)

主語のシルシを否定形にする言い方も可能です。

((例 4)) **Hangem**kuta Saida, **ange**hangaika sana.

〈彼はサイダに会わなかったならば、とても慌てた。〉

... ❀

